

二松学舎 東京支部報



炎暑を乗り越えて

支部長 矢澤 喜成 (50文)

暑い暑い夏でしたが、東京都支部の皆様には、御変わりありませんでしょうか。去る七月十三日、高柳薫群馬県支部長の御招きにより、群馬県支部総会に伺いました。会場は新前橋のホテル ラシーネで、懇意にして戴いている、深澤賢治先輩(株式会社シムックス代表取締役会長・中齋塾フォーラム塾長)による御

講演があり、渋沢栄一についての御話を楽しく拝聴致しました。また、大学・大学院と同期だった仲訓金澤正教氏と久闊を叙する事が出来ました。更に、俳人の中里麦外先輩と知り合えた事も収穫でした。

と居るかの如き日中の暑さと突然の豪雨に、年々酷くなる地球温暖化を実感せざるを得ない夏天でした。決定的に有効な対策がなされないまま、この地球温暖化は進んでゆくのでしょうか。侵略や紛争による環境破壊という愚行を続けている場合ではないでしょうか。一人一人が真剣に向き合うべき危機的状況を認識すべ

きたと存じます。この殺人的な暑さの中、八月二十四日、銀座コリドー街、コート・ダジュールでの東京都支部総会・懇親会に命懸けで参加された方々には、深謝申し上げます。叔、来る十月二十六日には、河野千津子千葉県支部長の御厚意により、千葉県支部との合同で、「船橋界限の文学・歴史散歩」を開催し、太宰治旧宅跡等を巡ります。暑さも和らいでいる頃かと存じます。東京都支部の皆様、奮って御参加下さい。



二松学舎と私

監事 大淵 俊明 (50文)

私事で恐縮ですが、令和六年三月末日をもって学校法人二松学舎を定年退職いたしました。振り返りますと、昭和五十七年に学校法人二松学舎の職員として奉職以来、四十二年間事務職員として勤務してきました。

学校法人二松学舎においては、二松学舎大学、二松学舎大学附属柏中学校・高等学校、そして二松学舎大

学附属高等学校と三校の業務を担当させて頂きました。二松学舎大学においては学生課・教務課・就職支援課等教学担当部門に所属し、カリキュラム改正等に参画させて頂きました。二松学舎大学附属柏中学校・高等学校においては事務長として附属柏中学校の開設に携わらせて頂きました。そして、二松学舎大学附属

高等学校においては事務長として、野球部の夏・春の甲子園大会連続出場に係る支援業務の差配をさせて頂きました。それぞれの職場において、様々な業務を経験し、その一つ一つが現在の私の大きな経験値となっています。顧みまずと、過ぎ去った歳月の数々の思い出もつかの間の出来事のように



高校の校舎

さえ思われますが、しかし、めまぐるしく変転する時代の流れの中を今日まで無事に過ごせたことは、先輩・同僚・後輩等いろいろな方々の支えがあつてのことと心より感謝いたしております。今後は、一卒業生としてまた、東京支部会員としてご交誼頂けますようよろしくお願いいたします。

令和六年度

支部総会とライブ・懇親会

常任幹事 野口 明宏 (51文)

二〇二四年度東京支部総会が八月二四日(土)に銀座コリドー通りのコートダジュール(会議室兼カラオケ)で行われた。

今回は星野優子副会長の肝煎りにより実現した。総会は片山聖英幹事長の司会のもと、矢澤喜成支部長の挨拶、来賓代表として平野光治松苓会長の挨拶により始まった。

議長には家永修氏があたり、活動報告と次年度活動案、そして会計報告と次の予算案を中原敬二事務局長



よりそれぞれ説明がなされた。そして会計監査報告が大淵俊明氏よりあった。議題は全て肅々と進み、無事終了した。

ライブが始まる前にドリンク・食べ物が出され、星野副会長によって乾杯の発声がなされ、同時に今回の目玉である「ほほえむ」のライブがスタートとなった。

「ほほえむ」はギター弾き語りで、ギターの真辺雄一郎さん(長崎)とボーカルは今泉由香さん(東京)の二人で組まれている。

「夏の思い出」を歌い出しとして、「真赤な太陽」「いつでも何度でも」やジブリの「天空の城ラピュタ」と「なりのトトロ」といったポピュラーな曲々を歌い、続けてご自身の長崎をテーマとしたオリジナル曲を披露してくれた。

由香さんの透き通った歌声と洪い真辺さんのギター



に、一同酔いしれた。アンコールの後、終了となった。そして「ほほえむ」の二人とお子さんのりんちゃんにも加わってもらい、懇親会へと展開された。

しばしの歓談の後、家永修氏の詩吟の吟詠があり、とても和やかなものとなった。いった。

その後、参加者全員からコメントを戴いた。参加した卒業生は在学中の自分が所属したゼミの紹介や当時のエピソードを、またクラブ活動のことなどを語られた。その際、会場の両端のテーブルに座っていた二人が同じクラブの先輩と後輩であったことが分かり、再会に大感激する場面もあり、皆さんの笑顔が弾けていた。

また東京支部に限らず、



集合写真

他県からの参加もあり、とても和気藹々としたものとなった。さらに準会員というかたちで二松学舎大学の卒業生でない方々の積極的な参加もあり、皆さんの話が幅のあるものとなっていた。皆で楽しみ合うことの意味が深められていた。過去や思い出を語ることは、同時に、今をまた未来をしつかりと生きていくこととするこの決意表明でもあるということ強く気づかせてくれる会であった。参加者は三一名。午後一時に始まった会は、夕四時に別れ難いなか、再会を約束してお開きとなった。

参加者から

お邪魔しています

準会員 原田佐知子

私は水島涼太さんが二松学舎大学東京支部で講演会を行ったときに聞きに来たのが契機となって、準会員に加えてもらいました。

今では神奈川支部と東京支部の集まりに参加しています。松苓会の皆さんに全く隔てなく付き合っていただし、毎回楽しい経験をさせてもらっています。いつも親しく接してくださるので生きがいとなっています。

心とむ会

準会員 山田雄一郎

私は準会員として去年から参加させてもらっています。とにかくいつも心とむ会で癒やされています。

今回もとても心に響くよい会でした。カラオケ会議室ということで、ライブと同時に進行で飲食が始まりましたが、ライブ公演をしっかりと行ってもらったから懇親会の方が良かったのではないかと感じました。

こういう会はずっと続いてほしいです。

古典の魅力②「方丈記」——今を見つめる眼——

常任幹事 荒屋 陽子 (85文)

教科書に載っている古典

作品でひととき心を惹かれる

文章がある。「方丈記」の

冒頭「ゆく河の流れ」だ。

中学生の時にはじめてこの

文章に出会ってからずっと

気に入っているフレーズの

一つである。

ゆく河の流れは絶えず

して、しかも、もとの

水にあらず。淀みに浮

かぶうたかたは、かつ

消え、かつ結びて、久

しくとどまりたる例なし。世の中にある、人と柄と、またかくのごとし。

高校生のときに全文と現代語訳を読んだが、それでもこの冒頭より惹かれた部分はなかった。読んだ当時、「無常観」という言葉は説明できなかつたが、あとから考えると感覚的に理解できていたような気がする。人の生死に関してはまだ実

感はないので、この文章をまだ完全には理解できていないのかもしれない。しかし解ったように感じるのは、私が中学・高校のころ1回ずつ長距離の転校をして、人間関係がフルリセットされたことや数年で見知った場所が全く違う景色に変化していたという経験があるからだ。変わっていくものと変わらないもの、出会うことと離れていくこと。当時感じた、喪失感や環境の変化によるモヤモヤとこの文章を読んで感じた一種のポジティブな諦め感が

山田方谷十三歳の七言律詩

町 泉寿郎 (60文)

昨年二〇二三年八月三十一日の山陽新聞に「方谷十三歳の漢詩 新見で見つかる」という記事が掲載された。これに先立ち、新見市の戸田俊治氏から封書と電話をいただき、私はその鑑定を依頼された。戸田氏とは十五年来の交流があり、当該の書幅は戸田氏が以前から所蔵されている品で、二〇〇九年初訪時に私が撮影した写真を見返すと確か

にその中にもあった。山陽新聞に山田方谷を主人公にした連載小説「孤城春たり」



方谷が13歳の時に作った漢詩



漢詩を調べる町教授 (右)

が始まったことを契機に、戸田氏があらためて所蔵資料を見直して重要資料であると気づいたらしい。縦二三・五横一八・〇の紙片に記された漢詩稿「題武侯図」は、後年の方谷の

のようなもの、これが「無常観」だと思っている。私がこの文章に惹かれるのはその諦め感に、「変わらないものはないんだから仕方がないじゃない」と言ってもらったように感じたからだと思う。

古典を学ぶのはこのようにあるときふと出会った言葉がじんわりと心に響き、それが何か助けになるからで、そこに古典の魅力があるのだと思う。

——ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず——である。

筆跡を髣髴させる文字の結構や筆致が看取されるので真筆とみてまず間違いないであろうと私は判断した。早熟な方谷には三、四歳の時に揮毫した書も残されているが、漢詩は『方谷先生年譜』(一九〇五年刊)によれば十三歳で作ったこの七言律詩「題諸葛武侯図」が最早期作である。『山田方谷全集』(一九五一年刊)を繙くとこれ以前にも数首作っているが、この詩の意義は少年期の三島中洲が丸川龍達塾の玄関先でこの詩を見たのを契機に学問に志

し方谷に入門した逸話が残るためである。山田準(方谷養孫、中洲門人)が『方谷先生年譜』を編纂した時点で、この書は新見の松田翠雲家に伝えられており、その後、松田家から戸田氏の所有に移って今日に至っているとのことである。

その詩は「題武侯図／憶昔襄陽三顧時／臥龍一躍水離披／整師堪誅逆曹暴／孤節且興炎漢衰／北征六出威震夏／南伐七擒恩撫夷／豈料原頭星墮後／千秋万歳使人悲／丁丑(文化十四年)之冬十三童山球稿(訓詁：憶昔す襄陽三顧の時、臥龍一躍水より離披す。整師誅するに堪へたり逆曹の暴なるを、孤節且興く興くす炎漢の衰ふるを。北征六たび出でて夏を威震し、南伐七たび擒として夷を恩撫す。豈に料らんや原頭星墮つる後、千秋万歳人をして悲しませむ)。姓名を中国風に修して「山球」と署している。武侯は三国時代・蜀の軍師として知られる諸葛孔明のこと。方谷は主君板倉勝静らに建築する際にしばしば上中下三策を授けていたが、これは諸葛孔明の故智に学んだものらしい。

「教壇に立った鷗外先生」とその「先生」

常任幹事 齋藤 祐一 (51文)

文京区立鷗外記念館で、「教壇に立った鷗外先生」という特別展が開かれていると、片山幹事長から教えていただいた。同館にほど近い学校を定年になってから、しばらく足が遠のいていたのだが、今年六月、久しぶりに訪れてみた。

鷗外は、二十歳のときに初めて教壇に立った。私立東亜医学学校で生理学を講じたのが最初であり、その後、慶応義塾大学部講師、陸軍軍医学校校長、東京美術学校講師などを務めたほか、修身や唱歌の国定教科書の編纂にも関わっている。そうした足跡を、一次資料をもとに紹介する、見ごたえのある特別展であった。

さて、展示を見ながら気になったのが、では鷗外その人は、どんな人物を「先生」と思っていたのか、ということだった。津和野の藩校養老館で、六歳のときに『論語』の素読を習ったのが、「先生」と出会った最初であろうか。以来、多くの「先生」の教えを受け

たであろうが、この度の展示では、そのあたりが判然としなかったのである。

もつとも、そこはこの特別展の趣旨ではない。そこで、とりあえず日記(岩波版『鷗外全集』三五)を見たのだが、途方もない数の人物が登場するなか、「先生」と呼んでいるのは、意外なことに、わずかに二人しかない。

一人は桂湖村である。漢詩文の校閲を乞うなど、湖村と交流のあった鷗外は、『漢籍解題』(明治三八年)の著者としても知られる、この六歳年下の漢学者のことを、十五回にわたり「桂先生」と呼んでいる。

そして、もう一人が三島中洲である。中洲(毅)の名は、日記に三回登場するのだが、その三度目に、



鷗外記念館にて



森 鷗外

「十五日。晴。参寮。弔三嶋中洲先生。先生卒後三日也。三子桂、廣、復」(大正八年五月一日)とある。中洲へ弔意を表わすにあたり、「先生」と呼んでいるのである。

日記に限ったことだが、この二人の漢学者のみを「先生」と呼ぶ鷗外には、おそらく、兩名への特別な思いがあったのだろう。加えて鷗外は、「先生」ということばを、輕輕には用いていないようだ。

とすると、この度の特別展のタイトルにある最後の一句を、ご当人はどう見ているのか、今度はそんなことが気になりはじめた。



今日も千鳥足

事務局長 中原 敬二 (62文)

生来の食いしん坊である。飲み会が好きだが、つまみ無しでは酒が進まない。数年前までは気が小さいのでお一人様では店に入れず、職場の仲間といつも九段界隈を飲み食べ歩いてきた。

ある日、小学生時代からの友人が亡くなったと知らせがあった。彼とは子供の頃ゲームセンターに行ったが、隠れて酒を飲んだり、煙草を吸ったり、私を未知の世界へ誘ってくれた、いわゆる悪友の一人である。祭りの夜は特に盛り上がったものだった。彼の家でプレイしたパソコンゲームの影響もあり、私は中国文学科に進学することになる。

理系の彼は建築家になり、成人して一時期、ほぼ毎日地元で一一緒に飲み歩いていった。

そのうちお互いに家庭を持ち、我が家のリフォームを彼に依頼したりもした。が、少しずつ疎遠になってしまった。飲むのも職場中心になった。やがて、彼が病氣らしいという噂を聞いた。

た。五十代前半なのでそんなに気も留めていなかったが、死んでしまった。無茶な酒の飲み方をしていたらしい。地元では「伝説の大酒飲み」と呼ばれていたことが分かった。

いつでも会えると思っていたので後悔した。そして彼の足取りを追うことにした。それから地元で一人で飲むようになった。彼は皆に愛されていた。彼の話を足掛かりに、気が付くと何軒かの店の常連になっていた。

身体を壊すほどの酒の飲み方ってどうなのだろう。地元のカラオケスナックで、ストレス発散とばかりに熱唱する彼の動画を見せてもらい、涙が出た。彼は「悪い遊び」の先生だったが、酒の飲み方だけは見習わずに楽しく飲もうと思っている。

彼も食いしん坊だった。美味いつまみを求めて店を決め、キンキンに冷えたビールばかり飲んでいて、千鳥足で帰宅するとき、彼の後姿をふいに思い出すのだ。

合縁奇縁シリーズ⑥
奮闘中です！

小林 令子 (51文)



筆者

NPOひたち親子の広場で、親と子の活動支援を三二年続けています。きっかけは劇団仲間のバンドという演劇を三歳の長男と観たことです。日立でこんな本格的な演劇を子どもと一

緒に観ることができるとかということに感動したからです。

鑑賞活動としては、いろいろな劇団やバレエ団を招きました。どうしても日立に劇団四季を呼びたいと奔走して実現もできました。

創作活動としては、忍者修行遊び、かえっこバザール(お金を使わないお店屋さんごっこ)など楽しい遊びを企画運営しています。遊びだけではなく、キャ

技術の進歩と子どもたち

幹事長 片山聖英 (50文)

二〇二八年から三〇年までの間に、文科省は全ての子どもたちにiPadを持たせて紙の教科書を失すという方針である。

この十年のPC技術の急速な進歩は目覚ましく、子どもたちは生まれたときから母親の所持するスマホを渡されて暇を埋めさせられてきた世代である。

確実に変化してきたことは、とにかく楽しいことを絶えず求めていることと、

早急に解答を求めるようになったということである。

問題に答えるということでのちの勉強をしてきたことでは取り組まれた問題に対しては簡単なものも、答えが簡単に出せないものに対しては頭が回らなくなっているようだ。だから、すぐにスマホで検索をする。他の人はどうしているかを調べようとする。とにかくスマホが手離せなくなっているのが現状である。

今年四〇周年を迎え、集大成となる「OYATOKO あそびのマルシェ」をこの七月に開催したところです。ゼロから楽しいイベントを企画するのは大変なこともありましたが、たくさん子どもと大人の笑顔が見られた時に幸せを感じます。また、還暦を過ぎて高齢者介護美容に関心を持ち、認知

症に効果があるビューティタッチセラピーの認定資格を取得して活動しています。子どもから高齢者まで幅広い世代と交流して、これからの活動を続けていきたいと思っています。

今年四〇周年を迎え、集大成となる「OYATOKO あそびのマルシェ」をこの七月に開催したところです。ゼロから楽しいイベントを企画するのは大変なこともありましたが、たくさん子どもと大人の笑顔が見られた時に幸せを感じます。また、還暦を過ぎて高齢者介護美容に関心を持ち、認知

つまり、ものを考えていく手順が学べていない。分かっていることと分かっていないことをしっかりと区別して、次に不足しているものを補っていくことがなされていなくていいのである。

とにかく誰もが、楽しいことばかりを求めている。楽しいことの対極に辛いことや悲しいことがあるのだが、それを想定できなくて、その辛い状況になったときだけ、辛くて辛くて耐えられなくなってしまう。

誰もが耐えて歩を進めて少しずつ自分を成長させていくことが重要で、そうしたことを通して精神的向上を果たさなければならぬのに、そうした前提すらないという状態である。

技術は進歩して便利になった。しかし、(学ぶ)ことは一生の為事である。いつまでに、どういう成長を果たすべきなのかをしっかりと決めて取り組むべきであろう。

学ぶことの根本に立ち帰って、「読み書きソロバン」のように地道に「手を使って学ぶ」ことを大切にしていってほしい。



左の忍者が筆者

二松の風景

常任幹事 原 由来恵 (63文)

本年も三年のゼミ生たちと、恒例の京都合宿を実施した。コロナ禍以降、二回目の合宿。昼間は平安文学に登場する寺社への踏査や、場面を彷彿とさせる建築物・庭園の見学。夜は訪れた場所を踏まえた作品解釈の勉強会であった。九月にもかかわらず、体温と見聞違える暑さ。しかしその中でも、好奇心を持って、学ぶ楽しさを実感しているゼミ生たちの様子に、二松生の変わらぬ姿を感じて、とても幸せな気持ちになった。

さて、変わらない風景は、十一月の学園祭「創縁祭」でも見る事ができるのだらう。今年のゼミ生たちも、出店すると意気込んでいて、お揃いのTシャツを既に作成している。また、顧問をしているクラブでは、練習や作品制作に励んでいる。時代や校舎は変わっても、一生懸命に物事に向き合う学生たちの変わらぬ雰囲気。そんな二松の風景を皆さまにも味わっていただけたらと願う初秋となった。

2024年度 二松學舎松苓会東京支部予算

自 2024年4月1日 至 2025年3月31日

(単位 円)

Table with 6 columns: 科目, 予算, 備考, 科目, 予算, 備考. Rows include 会費, 支部運営助成費, 支部報発行助成費, etc.

2023年度 二松學舎松苓会東京支部会計報告

自 2023年4月1日 至 2024年3月31日

(単位 円)

Table with 12 columns: 科目, 予算, 決算, 差異, 科目, 予算, 決算, 差異. Rows include 会費, 支部運営助成費, 支部報発行助成費, etc.

雑収入：他支部からの祝金、預金利息



令和6年度文学散歩(応募要領)
本年度の文学散歩は、千葉県支部と東京都支部合同で開催
します。文学散歩を通じて参加の皆様方の交流を深め、お互
いに実り多い有意義な時間となりましたら幸いです。

2023年度松苓会東京支部活動報告
Table with 4 columns: 月日, 曜日, 行事, 備考. Rows include 6月3日 第1回東京支部役員会, etc.

2024年度松苓会東京支部活動案
Table with 4 columns: 月日, 曜日, 行事, 備考. Rows include 6月1日 第1回東京支部役員会, etc.

発行
二松學舎松苓会
東京支部 事務局(中原)
電話 090-7941-5116
来年は昭和一〇〇年、そ
して戦後八〇年のメモリア
ルイヤーになる。

